

平成26年度研究成果中間報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	28	都道府県・指定都市名	兵庫県	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	特別活動
研究課題	<p>新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成，指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究</p> <p>ホームルーム活動「(3)学業と進路」に示される「ア学ぶことと働くことの意義の理解」を中核とした活動と、学校行事「(5)勤労生産・奉仕的行事」の「就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」の取組を核とし、社会的な自立、人間としての在り方生き方についての自覚と自己を生かす能力（キャリア教育）の育成に関する特別活動として全体を通じた研究を進めた。</p> <p>テーマは、生徒の自尊感情を高めながら、生徒一人ひとりの特性や能力、希望に応じた進路実現を目指した“生徒の夢をかたちにするキャリア教育の推進”とした。</p>				
学校名（生徒数）	ひょうごけんりつひがしなだこうとうがっこう 兵庫県立東灘高等学校（832人）				
所在地（電話番号）	078（452）9600				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.hyogo-c.ed.jp/~higashinada-hs/				
研究のキーワード	自己肯定感（自尊感情UP）充実感（高校生活における意義）将来志向（夢をかたちに）				
研究成果のポイント	<p>① 体験活動と事前・事後活動（指導）の充実</p> <p>② 自己肯定感（自尊感情）、充実感、将来志向と在り方生き方（キャリア教育）の関係検証</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

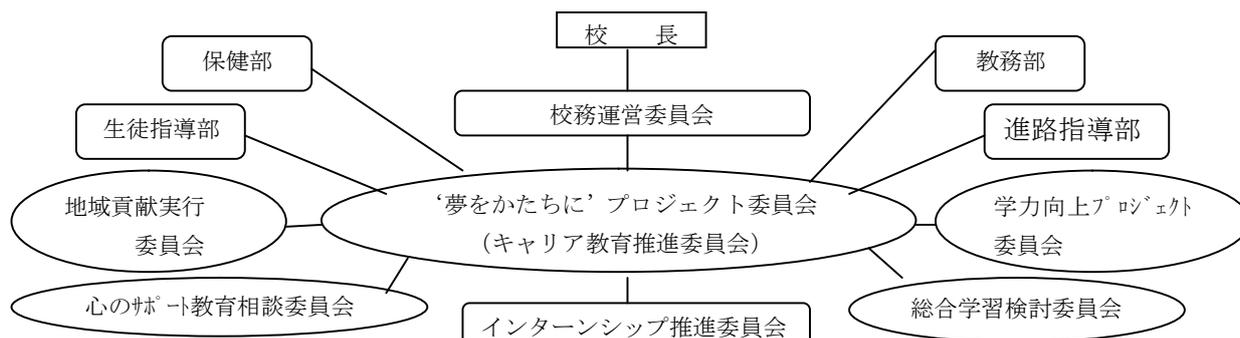
生徒の夢をかたちにするキャリア教育の推進

(2) 研究主題設定の理由

本校は、神戸市東部に位置する全日制普通科の高等学校であり、中学校時代に家庭環境、不登校、怠学傾向など、多様な課題を抱え、勉強に集中することができなかった生徒や成功体験に乏しく自尊感情が低い生徒が数多く入学してくる。そのため、生徒は、自分の将来に夢や希望をもつことができず、高校生活に意義を見出せないため、転退学する生徒も少なくない。その結果、落ち着いて授業を受ける環境が整いにくく、生徒自身が卒業後の進路を主体的に選択することもままならない状況が、最近まで続いていた。また、とりあえず卒業できればよいという考えの生徒が多く、教員側も進路実現というより、日々の学校生活を送らせることに重点が置かれており、3年間を見通したキャリア教育を行うには至ってなかった。

そこで、生徒の自尊感情を高めながら、生徒一人ひとりの特性や能力、希望に応じた進路実現をさせるため、この研究を行うことにした。

(3) 研究体制



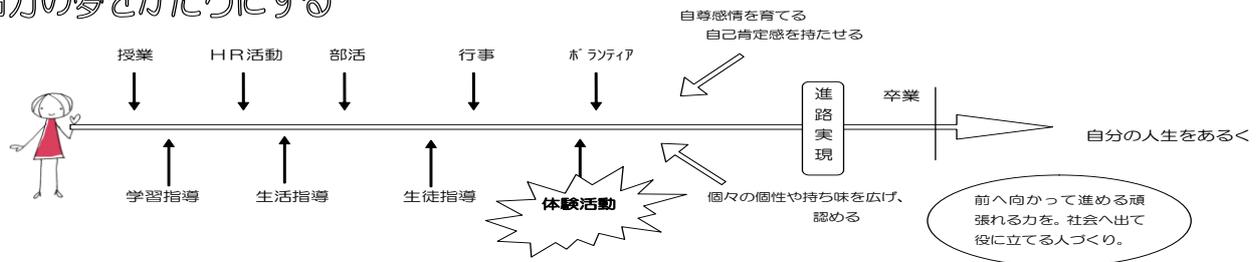
(4) 1年間の主な取組

	第1学年	第2学年	第3学年	職員
平成26年度	1学期 5月：事業所体験(LHR) 7月：職業人と語る会(行事)	5月～：夏季体験学習事前指導(総合・LHR) 7月：体験学習をするにあたって～マナー指導～(行事) 7月：夏季体験学習事前アンケート実施(LHR)	進路別に応じた総合学習(総合・LHR)	4月：在り方生き方(キャリア教育)の指導計画～総合的な学習もからめて～ 5月：アンケート制作 7月：協力事業所の方の校内見学及び指導助言 7月：アンケートの実施
	休	夏季体験学習～全員3日以上実施(課外活動)		
	2学期 10月：進路講話(LHR) 12月：大学見学(行事)	9月：夏季体験学習事後指導(総合・LHR) 9月：夏季体験学習事後アンケート実施(LHR) 10月：職業人講話(総合) 12月：進路ガイダンス(行事)	進路別に応じた総合学習(総合) 11月：よりよい社会人となるために(接遇マナー指導)(総合)	9月：アンケートの実施 10月：アンケートの集計 11月：職員研修・指導助言(関西大学 川崎友嗣教授) 12月：事業所向けアンケートの制作
3学期 3月：進路ガイダンス(行事) 3月：2年生から1年生への夏季体験学習プレゼンテーション会(行事) 3月：進路講演会(行事)	3月：進路ガイダンス(行事) 3月：卒業生と語る会(行事) 3月：進路講演会(行事)		1月：事業所向けアンケートの実施 2月：事業所向けアンケートの分析 3月：在り方生き方(キャリア教育)の指導計画の見直し及び次年度の計画案作成	

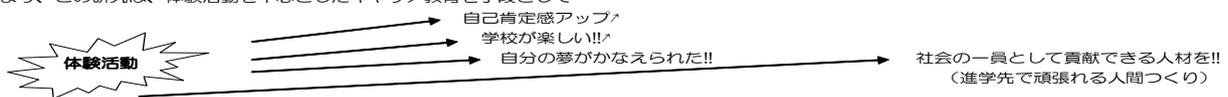
2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

自分の夢をかたちにする



つまり、この研究は、体験活動を中心としたキャリア教育を手段として・・・



キーワード：自己肯定感(自尊感情UP)、充実感(高校生活における意義)、将来志向(夢をかたちに)

- ① 自己肯定感(自尊感情)、充実感、将来志向と在り方生き方(キャリア教育)に関する指導の関係検証
体験活動を中心とした在り方生き方(キャリア教育)の推進によって生徒の自己肯定感(自尊感情)を高めていく。
- ② 3年間を見通した在り方生き方(キャリア教育)に関する指導の体系化
特別活動を核とし総合的な学習の時間も関連づけながら3年間を見通した在り方生き方の指導計画を体系化する。

- ③ 体験活動の充実
就業体験など勤労に関わる体験活動を充実させ、学ぶことと働くことの意義の理解を促し、将来社会人として自立した生き方が出来るように導く。
- ④ 地域関連機関等との連携
近隣事業所、高齢者施設、保育所・幼稚園、大学などの関連機関と連携し、地域や事業所と協働していく。
- ⑤ 横断的な取組
すべての教育活動を「学びと社会のつながり」の視点で見直し、生徒指導、学習指導と関連付けながら横断的に取組を推進する。

(2) 具体的な研究活動

- ① 自己肯定感（自尊感情）、充実感、将来志向と在り方生き方（キャリア教育）に関する指導の関係検証
 - ・事前及び事後アンケートを、3つのキーワード[自己肯定感（自尊感情 UP）・充実感（高校生活における意義）・将来志向（夢をかたちに）]に関するアンケートを実施し本校生徒の特徴を知るとともに、夏季体験学習に関するアンケートも実施し、上記3つのキーワードとの関連性を調べた。
- ② 3年間を見通した在り方生き方に関する指導の体系化
 - ・第1学年「発見!!」、第2学年「体験!!」、第3学年「実践!!」というテーマを設定し、体系的に在り方生き方を指導するだけでなく、各学年において目標を定め、かつ、総合的な学習との連動を図り計画し実施した。
- ③ 体験活動の充実
 - ・生徒に主体的に進路決定させる手段として夏季体験学習を充実させ（本年度は事前・事後指導の実施）、達成感を得させ、自信をもたせ、自分の夢をもたせる一助とした。
 - ・事前指導においては、各体験別を実施し、より生徒が体験に前向きに取り組めるような仕掛け（例えば、ふれあい看護体験では、神戸市内の医療機関と連携し看護師に講話をいただくなど）やマナー指導を行った。多様な人との触れ合いや事前・事後活動の話し合い、体験における生徒間の協力からよりよい人間関係の構築も目指した。
- ④ 地域関連機関等との連携
 - ・近隣事業所、高齢者施設、保育所・幼稚園、大学などの関連機関と連携し、専門的な話を聞いたり触れ合ったり、地域の方との連携を図り活動した。
 - ・近隣事業所「モロゾフ株式会社(神戸市東灘区に本社を置く洋菓子メーカー)」に研究のアドバイスをもらうとともに、内定事業所・就業体験受入れ事業所などにアンケートを実施する。
- ⑤ 横断的な取組
 - ・生徒指導（授業規律・服装指導・遅刻指導・特指プログラム）や学習指導（学力向上プログラム）との横断的なアプローチを行った。ここでも社会的自立に加えてよりよい人間関係をつくる力の育成をねらった。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

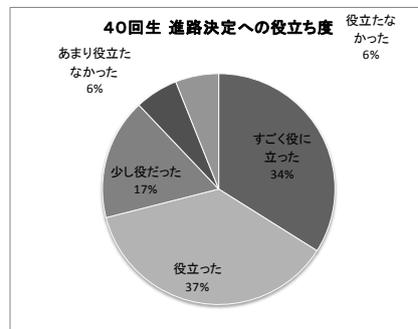
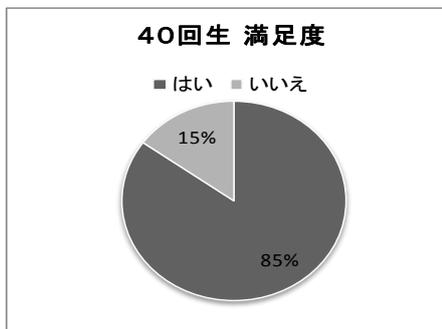
- ① 本校第2学年生徒の特徴(男子126名、女子135名 計261名 ここ数年見られなかった定員割の学年)
 - ・教員側からみた生徒の印象：性質はややおとなしく、控え目で、やるべきことはやれるが、積極的な行動の示し方はしない。学習に対して苦手意識をもつ生徒が多い。また、褒められた経験や成功した経験が少なく自分に自信がない生徒が多い。自己表現も消極的である。
 - ・5月に7項目のアンケート調査を実施。その結果、自分のことは好きだ、及び、大切な存在だ、人から必要とされていると思う割合（そう思う＋ややそう

思うは3割と低いですが、6割の生徒は学校が楽しく、夢を持っている。また、社会に役立ちたいと8割の生徒が思っていることがわかった。

② 体験活動の充実

・夏季体験学習（①大学・短大、②専門学校、③保育系、④医療・看護系、⑤就職の5つのコースで実施）の充実を図り、事前指導（コース別5時間＋マナー指導、結団式）及び事後指導（4時間）を実施。（事前指導の有効度：60.4%）

・85%が満足し、71%が進路決定に役立つと答え、84%の生徒今後の学校生活に生かせると答えた。



③ 自己肯定感（自尊感情）、充実感、将来志向と在り方生き方（キャリア教育）との関係検証

・事前及び事後に、自己肯定感・充実感・将来志向に関するアンケートを実施し、本校生徒の特徴を知るとともに、夏季体験学習に関するアンケートも行い、その関係性を調べた。

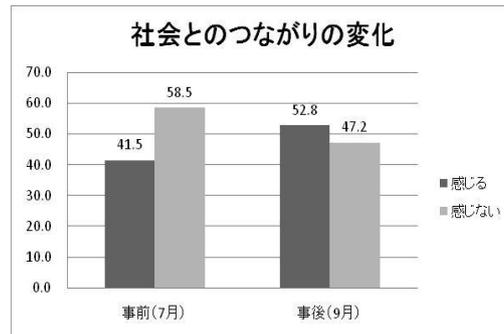
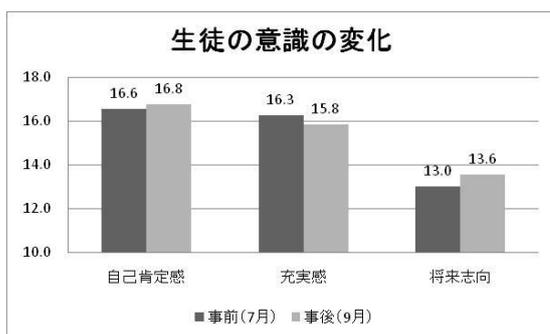
<調査内容>

自己肯定感（自尊感情）・充実感・将来志向、夢の有無、具体的な進路、学びによる社会と自分とのつながり、情報収集、学習の意義の変化

<生徒の意識の変化>

・夏季体験学習前後での有意な差が見られたのは、「将来志向」であった。体験活動によって、将来の夢を持ち、前向きな姿勢で取り組み程度が高まったといえる。

・体験活動前後での有意な差が見られたのは、「社会とのつながり」で、直前のアンケートでは「感じない」（58.5%）という回答の方が多かったが、直後では「感じる」（53.0%）という回答が多くなり、逆転がみられた。体験活動によって「社会とのつながり」を意識する生徒が増えたと考えられる。



(2) 課題

- ・「なぜ学ぶのか、学ばなければならないのか」という視点の伝わりが悪かった。
- ・教員間に特別活動や在り方生き方（キャリア教育）に対する理解に温度差がある。
- ・事業所の実態を得ていない。

(3) 研究2年目へ向けての取組

- ・学ぶことの意義を働くことの意義と関連させ、より生徒に伝わる事前指導の実践や在り方生き方（キャリア教育）に関する指導計画に盛りこんでいく。
- ・教員の意識を高め、共通理解をはかる。
- ・事業所との協働により、より広い視点で、社会的自立、人間としての在り方生き方についての自覚と自己を生かす能力の育成に関する指導と評価の検証を行う。